

新入学生徒教育課程 (その2)

令和5年度
山口県立小野田工業高等学校

教育課程実編成上の基本的事項 <small>実際の・体験的な学習を重視するため、工業技術基礎・実習・製図等の科目を選び、より基礎的・基本的な内容に重点をおいた。</small>	本校または分校の別	全日制、定時制 又は通信制の別	学 科	生徒数		
	本 校			機 械	男	女
	分校の名称	全 日 制	30		0	30

教科・科目等	類 型	生産機械コース				メカトロコース				
		学 年	1	2	3	計	1	2	3	計
		学級数	1	1	1	1	1	1	1	1
各学科に共通する各教科・科目	国 語	現 代 の 国 語	3			3	3			3
		言 語 文 化		3		3		3		3
		国 語 表 現			2	2			2	2
	地理歴史	地 理 総 合	2			2	2			2
		歴 史 総 合			2	2			2	2
	公 民	公 共		2		2		2	2	
	数 学	数 学 I	4			4	4			4
		数 学 II		2	2	4		2	2	4
		数 学 A		○2		○2		○2		○2
	理 科	科学と人間生活	2			2	2			2
		物 理 基 礎		2	2	4		2	2	4
	保 健 育	体 育	2	2	3	7	2	2	3	7
		保 健	1	1		2	1	1		2
	芸 術	書 道 I	2			2	2			2
		英 語 コミュニケーション I	3			3	3			3
	外 国 語	英 語 コミュニケーション II		2	2	4		2	2	4
		論 理 ・ 表 現 I		○2		○2		○2		○2
	家 庭	家 庭 基 礎		2		2		2		2
情 報	情 報 I	A*				A*				
主として専門学科において開設される各教科・科目	工 業	工 業 技 術 基 礎	3			3	3			3
		課 題 研 究			3	3			3	3
		機 械 実 習		6	4	10		6	4	10
		機 械 製 図	2		2	4	2		2	4
		工 業 情 報 数 理	2			2	2			2
		機 械 工 作	2	2		4	2	2		4
		機 械 設 計		3	2	5		3	2	5
		原 動 機			3	3			3	3
		生 産 技 術			2	2			2	2
総合的な探究の時間		1		B*	1	1		B*	1	
自 立 活 動		(1)	(1)	(1)	(0~3)	(1)	(1)	(1)	(0~3)	
日 本 語 指 導		(1)	(1)	(1)	(0~3)	(1)	(1)	(1)	(0~3)	
単 位 数 合 計		29(31)	29(31)	29(31)	87(~93)	29(31)	29(31)	29(31)	87(~93)	
特 別 活 動	ホ ー ム ル ー ム の 実 施 週 時 数	1	1	1	3	1	1	1	3	
	指 導 計 画 の 要	(ホームルーム活動) 学校生活の充実・向上を図り、生徒が共通して直面する様々な課題への対応等についての活動を行う。 (生徒会活動) 部活動やボランティア活動、文化祭・クラスマッチ等の学校行事、その他生徒による自発的活動を通じ、学校生活全体の充実・向上に関する活動を行う。 (学 校 行 事) 入学式・卒業式・文化祭・クラスマッチ・修学旅行・工場見学等を通じて、教師・生徒相互の理解融合を図り、生徒の自主的・実践的な活動を行う。								

注1 2学年から生産機械コース、メカトロコースの2コースに分かれるが、座学は共通であり実習に重点を置いて、コース独自の指導を行う。

注2 1学年の「数学I」、2・3学年の「数学II」は習熟度別編成を実施する。

注3 1学年の「英語コミュニケーションI」は少人数制を実施する。

注4 A*「情報I」2単位を「工業情報数理」で、B*「総合的な探究の時間」2単位を「課題研究」で代替する。

注5 2学年の「数学A」と「論理・表現I」は1科目を選択する。

注6 「自立活動」は通級による指導とする。単位認定は、増加単位による認定とする。

注7 「日本語指導」は、学校教育法施行規則第86条の2に基づく特別の指導であり、生徒の実態に応じて実施する。単位の認定は、増加単位による認定とする。

新入学生徒教育課程 (その2)

令和5年度
山口県立小野田工業高等学校

教育課程実編成上の基本的事項 実際の・体験的な学習を重視するため、工業技術基礎・実習・製図等の科目を選び、より基礎的・基本的な内容に重点を置いた。	本校または分校の別	全日制、定時制 又は通信制の別	学 科	生徒数		
	本 校			全 日 制	電 子 情 報	男
	分校の名称	30	0			30

教科・科目等	類 型	学 年	学級数	情報制御コース				情報通信コース			
				1	2	3	計	1	2	3	計
				1	1	1	1	1	1	1	1
各学科に共通する各教科・科目	国 語	現 代 の 国 語	3			3	3				3
		言 語 文 化		3		3		3			3
		国 語 表 現			2	2			2		2
	地 理 歴 史	地 理 総 合	2			2	2				2
		歴 史 総 合			2	2			2		2
	公 民	公 共		2		2		2		2	
	数 学	数 学 I	4			4	4				4
		数 学 II		2	2	4		2	2		4
		数 学 A		○2		○2		○2			○2
	理 科	科学と人間生活	2			2	2				2
		物 理 基 礎		2	2	4		2	2		4
	保 健 育	体 育	2	2	3	7	2	2	3		7
		保 健	1	1		2	1	1			2
	芸 術	書 道 I	2			2	2				2
		英 語 コミュニケーション I	3			3	3				3
		英 語 コミュニケーション II		2	2	4		2	2		4
	外 国 語	論 理 ・ 表 現 I		○2		○2		○2			○2
		家 庭 基 礎		2		2		2			2
情 報	情 報 I	A*				A*					
主として専門学科において開設される各教科・科目	工 業	工 業 技 術 基 礎	3			3	3				3
		課 題 研 究			3	3			3		3
		電 子 情 報 実 習		4	6	10		4	6		10
		工 業 情 報 数 理	2			2	2				2
		電 気 回 路	4	2		6	4	2			6
		電 子 回 路		1	2	3		1	2		3
		電 子 計 測 制 御			2	2					
		通 信 技 術							2		2
		プ ロ グ ラ ミ ン グ 技 術		2		2		2			2
		ハ ー ド ウ ェ ア 技 術		2		2		2			2
		ソ フ ト ウ ェ ア 技 術			3	3			3		3
総合的な探究の時間		1		B*	1	1		B*		1	
自 立 活 動		(1)	(1)	(1)	(0~3)	(1)	(1)	(1)		(0~3)	
日 本 語 指 導		(1)	(1)	(1)	(0~3)	(1)	(1)	(1)		(0~3)	
単 位 数 合 計		29(31)	29(31)	29(31)	87(~93)	29(31)	29(31)	29(31)		87(~93)	
特 別 活 動	ホームルームの実施週時数		1	1	1	3	1	1	1	3	
	指 導 計 画 の 要		(ホームルーム活動) 学校生活の充実・向上を図り、生徒が共通して直面する様々な課題への対応等についての活動を行う。 (生徒会活動) 部活動やボランティア活動、文化祭・クラスマッチ等の学校行事、その他生徒による自発的活動を通じ、学校生活全体の充実・向上に関する活動を行う。 (学 校 行 事) 入学式・卒業式・文化祭・クラスマッチ・修学旅行・工場見学等を通じて、教師・生徒相互の理解融合を図り、生徒の自主的・実践的な活動を行う。								

- 注1 2学年から情報制御コース、情報通信コースの2コースに分かれるが、2学年においては座学は共通であり、実習に重点を置いて、コース独自の指導を行う。
- 注2 1学年の「数学I」、2・3学年の「数学II」は習熟度別編成を実施する。(電子情報科と化学工業科2クラス2講座を3講座に分ける)
- 注3 1学年の「英語コミュニケーションI」は少人数制を実施する。
- 注4 A*「情報I」2単位を「工業情報数理」で、B*「総合的な探究の時間」2単位を「課題研究」で代替する。
- 注5 2学年の「数学A」と「論理・表現I」は1科目を選択する。
- 注6 「自立活動」は通級による指導とする。単位認定は、増加単位による認定とする。
- 注7 「日本語指導」は、学校教育法施行規則第86条の2に基づく特別の指導であり、生徒の実態に応じて実施する。単位の認定は、増加単位による認定とする。

新 入 学 生 徒 教 育 課 程 (その2)

令和5年度

山口県立小野田工業高等学校

教育課程実編成上の基本的事項 実際の・体験的な学習を重視するため、工業技術基礎・実習・製図等の科目を選び、より基礎的・基本的な内容に重点をおいた。	本校または分校の別	全日制、定時制 又は通信制の別	学 科	生徒数		
	本 校					
	分校の名称	全 日 制	化学工業	男	女	計
				30	0	30

教科・科目等	類 型	学 年	学級数	材料化学コース				環境化学コース			
				1	2	3	計	1	2	3	計
				1	1	1	1	1	1	1	1
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現 代 の 国 語	3			3	3			3	
		言 語 文 化		3		3		3		3	
		国 語 表 現			2	2			2	2	
	地 理 歴 史	地 理 総 合	2			2	2			2	
		歴 史 総 合			2	2			2	2	
	公 民	公 共		2		2		2	2		
	数 学	数 学 I	4			4	4			4	
		数 学 II		2	2	4		2	2	4	
		数 学 A		○2		○2		○2		○2	
	理 科	科 学 と 人 間 生 活	2			2	2			2	
		物 理 基 礎		2	2	4		2	2	4	
	保 健 育	体 育	2	2	3	7	2	2	3	7	
		保 健	1	1		2	1	1		2	
	芸 術	書 道 I	2			2	2			2	
		英 語 コミュニケーション I	3			3	3			3	
		英 語 コミュニケーション II		2	2	4		2	2	4	
	外 国 語	論 理 ・ 表 現 I		○2		○2		○2		○2	
		家 庭 基 礎		2		2		2		2	
情 報	情 報 I	A*				A*					
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	工 業	工 業 技 術 基 礎	3			3	3			3	
		課 題 研 究			2	2			2	2	
		化 学 工 業 実 習		5	4	9		5	4	9	
		工 業 情 報 数 理	2			2	2			2	
		工 業 化 学	4	4	4	12	4	4	4	12	
		化 学 工 学		2	3	5		2	3	5	
		地 球 環 境 化 学							3	3	
		材 料 製 造 技 術			3	3					
総合的な探究の時間		1		B*	1	1		B*	1		
自 立 活 動		(1)	(1)	(1)	(0~3)	(1)	(1)	(1)	(0~3)		
日 本 語 指 導		(1)	(1)	(1)	(0~3)	(1)	(1)	(1)	(0~3)		
単 位 数 合 計		29(31)	29(31)	29(31)	87(~93)	29(31)	29(31)	29(31)	87(~93)		
特 別 活 動	ホ ー ム ル ー ム の 実 施 週 時 数	1	1	1	3	1	1	1	3		
	指 導 計 画 の 要 要	(ホームルーム活動) 学校生活の充実・向上を図り、生徒が共通して直面する様々な課題への対応等についての活動を行う。 (生徒会活動) 部活動やボランティア活動、文化祭・クラスマッチ等の学校行事、その他生徒による自発的活動を通じ、学校生活全体の充実・向上に関する活動を行う。 (学 校 行 事) 入学式・卒業式・文化祭・クラスマッチ・修学旅行・工場見学等を通じて、教師・生徒相互の理解融合を図り、生徒の自主的・実践的な活動を行う。									

注1 2学年から材料化学コース、環境化学コースの2コースに分かれるが、2学年においては座学は共通であり、実習に重点を置いて、コース独自の指導を行う。

注2 1学年の「数学I」、2・3学年の「数学II」は習熟度別編成を実施する。(電子情報科と化学工業科2クラス2講座を3講座に分ける)

注3 1学年の「英語コミュニケーションI」は少人数制を実施する。

注4 A*「情報I」2単位を「工業情報数理」で、B*「総合的な探究の時間」2単位を「課題研究」で代替する。

注5 2学年の「数学A」と「論理・表現I」は1科目を選択する。

注6 「自立活動」は通級による指導とする。単位の認定は、増加単位による認定とする。

注7 「日本語指導」は、学校教育法施行規則第86条の2に基づく特別の指導であり、生徒の実態に応じて実施する。単位の認定は、増加単位による認定とする。

注8 「工業技術基礎」「課題研究」「材料製造技術」は、化学に関する内容とする。